

2011年度 京カレッジ 京都力養成コース「京都学講座」

「京のみちあるき」

～道路・鉄路・水路をたどって～

受講生募集について

■受講申込について

- (1) 事前申込にて全10回分の受講申込を受付いたします。
定員に満たしていない場合のみ、当日受付をいたします。
(定員250名)
- (2) 実地講座(11月6日・20日)は、事前申込にて全10回分の受講申込をされた方のみを対象に受付いたします。実地講座の申込方法につきましては、「受講可否通知」にてお知らせいたします。
(希望者多数の場合は、抽選とします。)

■受講申込方法

受講申込受付期間中に、下記の書類(出願用紙、顔写真(縦3cm×横2cm)1枚)を郵送または窓口までご持参ください。

※お手元に下記書類をお持ちでない方は、2011年度「京カレッジ生募集ガイド」を入手してください。

(1)「2011年度 京カレッジ出願用紙」

- 氏名(フリガナ)・性別・生年月日・職業・現住所・緊急連絡先(勤務先等)・出願希望大学・科目番号・科目名・講座種別を必ずご記入ください。
(注1) 出願希望大学欄には、「大学コンソーシアム京都」とご記入ください。
(注2) 科目番号には、「M004」とご記入ください。
(注3) 科目名には、「京都学講座「京のみちあるき～道路・鉄路・水路をたどって～」」とご記入ください。

(注4) 講座種別は、「京都力養成コース」に○をご記入ください。

(2)「京カレッジ会員証用顔写真(縦3cm×横2cm)1枚」

(3) 学生証のコピー(大学コンソーシアム京都の加盟大学、短期大学の正規学生のみ)

■個人情報の取扱いについて

個人情報は事務局が責任をもって管理し、受講に関する書類送付や講座運営、ならびに公益財団法人 大学コンソーシアム京都が主催する催事等のご案内以外には使用いたしません。

■受講に係る注意事項

天候等やむを得ない事情により、講座が中止もしくは延期となる場合がございます。あらかじめご了承願います。詳細は2011年度「京カレッジ生募集ガイド」(3月11日発行予定)をご参照願います。

「京都学講座」では、生涯学習科目として受講生により身近で、奥深い話題を提供すべく「京のみちあるき」というテーマで実施いたします。「何か」が通る道という概念で3つの道「道路・鉄路・水路」に焦点をあて、時間軸で辿る道・道の歴史・地域の歴史的視点などから「京都らしさ」を明らかにし、その魅力を紐解いていきます。

■京カレッジ会員特典

京カレッジ科目の受講を許可された皆様は、「京カレッジ会員証」を用いて大学コンソーシアム京都の加盟大学・短期大学の一部の図書館が利用できます(詳細は2011年度京カレッジ生募集ガイドをご参照ください)。

■受講申込受付期間

●郵送の場合:
3月11日(金)～3月26日(土)《必着》

●持込の場合:
3月19日(土)～3月26日(土)

《3月21日(月)は休館日のため受付をしません》

(注1) 持込時の受付時間:9時～17時

(注2) 持込時の受付場所:キャンパスプラザ京都1階

■申込先

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

(公財)大学コンソーシアム京都 教育事業部(京カレッジ担当)宛

※郵送の場合は専用の封筒をご利用ください。(専用の封筒がない場合は、市販の封筒に上記の送付先をお間違えないようご記入ください。)

■受講可否通知

受講の可否については、3月26日の申込締切後、選考を行い、4月中に受講可否通知を郵送いたします。

(応募者が定員を超過した場合は、抽選とします。)

■受講手続

受講が許可された方には、受講料の支払方法についても併せてご連絡いたします。受講料を納入された方には、「京カレッジ会員証」(又は仮会員証)を郵送いたしますので、毎回講座を受講する際は、必ずご持参ください。

■受講料

全10講座 10,000円(税込)

当日受付については、1講座につき1,500円(税込)

(ただし、当日受付については、定員に満たしていない場合のみ受付)

※大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の正規学生(大学院生・専攻科生除く)、放送大学京都学習センター全科履修生については、受講料を無料とします。ただし、通信教育課程の学生、科目等履修生、聴講生は受講料が必要です。

●実地講座

11月 6日 定員25名(参加費:無料)

11月20日 定員50名(参加費:別途 3,900円 税込)

●お問い合わせ先



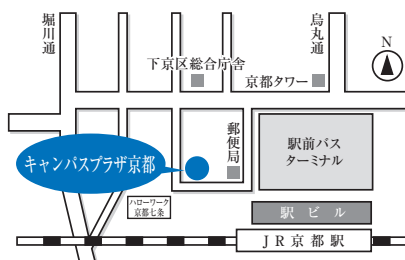
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る
キャンパスプラザ京都
※月曜日は休館日です。

http://www.consortium.or.jp/

TEL 075-353-9140

FAX 075-353-9121



2011年度 京カレッジ 京都力養成コース「京都学講座」

「京のみちあるき」

～道路・鉄路・水路をたどって～

何かがおとる京のみち。それは人の足跡、電車の音、川の流れ。
何処にでも京の歴史がよみがえる。

■講座紹介

第一回 6月5日(日)

新京極通ができるまで ～平安京から秀吉の京都改造を経て～
河原 典史氏 立命館大学文学部 准教授

第二回 6月12日(日)

近代京都の道路と前近代のみち
伊従 勉氏 京都大学大学院人間・環境学研究所 教授

第三回 6月19日(日)

京の「七口」を考える ～「京都」の範囲と出入口の変遷～
中村 武生氏 立命館大学 非常勤講師

第四回 6月26日(日)

異界への道 ～旧五条大路を歩く～
五島 邦治氏 京都造形芸術大学 客員教授

第五回 7月3日(日)

都市内公共交通機関としての市電の役割
井上 学氏 平安女学院大学国際観光学部 講師

第六回 7月10日(日)

舞鶴軍港への鉄路
松下 孝昭氏 神戸女子大学文学部 教授

第七回 10月16日(日)

角倉了以と高瀬川
勝矢 淳雄氏 京都産業大学理学部 教授

第八回 10月23日(日)

保津川の綱道 ～船を曳き上げた道～
鵜飼 均氏 亀岡市教育委員会社会教育課 主任

第九回 10月30日(日)

琵琶湖疏水 神話の検証
原田 敬一氏 佛教大学歴史学部 教授

第十回 11月13日(日)

京の地中を流れる水
八木 透氏 佛教大学歴史学部 教授

実地講座 11月6日(日)

疏水歴史めぐり ～疏水にかけた期待と疏水の実際～
原田 敬一氏 佛教大学歴史学部 教授

実地講座 11月20日(日)

保津川下り ～船を曳き上げた綱道を辿る～
鵜飼 均氏 亀岡市教育委員会社会教育課 主任

■開催日時・開催場所

2011年6月5日(日)～11月13日(日)14時～15時30分
【実地講座は、11月 6日(日)13時30分～15時30分、
11月20日(日)13時～16時】

キャンパスプラザ京都4階 第2講義室
【実地講座は、11月 6日(日) 疏水歴史めぐり(山科周辺)、
11月20日(日) 保津川下りを開催】



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

2011年度 ^{みやこ}京カレッジ 京都力養成コース「京都学講座」

「京のみちあるき」～道路・鉄路・水路をたどって～

第一回 6月5日(日)

新京極通ができるまで ～平安京から秀吉の京都改造を経て～

かわはら のりふみ
河原 典史 氏



立命館大学 文学部
准教授

◆講座概要

平安遷都にあたって、京の街は条坊制にならって「基盤の目」の道路パターンを採るようになりました。その後、平安京の衰退によって町域は「四面町」から「片側町」、やがて「両側町」へと変化していきます。空閑地には「辻子(図子)」や「突抜」と呼ばれる路地が生まれます。そして、京を城下町として改造した豊臣秀吉は、空閑地の有効利用のため、洛中にいくつかの道路を縦断させます。また、秀吉は防御を目的として寺院を移転させ、「寺町」が形成されます。その境内は、芸能・娯楽の場として賑わいを見せます。やがて、明治維新を迎えたとき……。京のみちについて、古代から近代へとつながる歴史を地理学からアプローチしてみましょう。

◆略歴

1963年大阪府生まれ
1993年立命館大学大学院文学研究科博士課程地理学専攻単位取得退学、立命館大学文学部助手・講師・助教授を経て、2008年より准教授

第三回 6月19日(日)

京の「七口」を考える ～「京都」の範囲と出入口の変遷～

なかむら たけお
中村 武生 氏



立命館大学
非常勤講師

◆講座概要

「京都」と聞いて、どのあたりまでを認識されますでしょうか。平安京・京都は実に1100年もミヤコでした。その間に多くの変化がありました。都市の範囲も大きくなったり、小さくなったりしました。それは人それぞれ認識によっても変わっています。当然、出入口たる「七口」も同様です。いろんな時代の、そして人々の「京の七口」をご紹介します。京都の範囲の色々を考えてみます。

◆略歴

1967年10月鳥根県生まれ、大阪府に育つ
1993年 3月佛教大学大学院文学研究科
修士課程を修了
著書に『御土居堀ものがたり』、『京都の江戸時代があるく』、『中村武生とあるく洛中洛外』など。

第五回 7月3日(日)

都市内公共交通機関 としての市電の役割

いのうえ まなぶ
井上 学 氏



平安女学院大学
国際観光学部 講師

◆講座概要

京都市の都市内部における公共交通は、1895年の京都電気鉄道(以下、京電)の開業に始まる。続いて、1912年に京都市電(以下、市電)が運行開始された。本講座では、京電と市電の路線建設の差異をふまえ、市電の一元化と路線網の拡大から縮小・廃止の過程を概観する。また、1937年の「電車・自動車交通調査実績」を元に市電の乗降客数のGIS化を行い、当時の市電の利用状況を時間帯ごとに明らかにする。これによって、当時の京都市における都市内公共交通機関としての市電の役割を考察する。また、市電廃止後の京都市内における公共交通の現状と展望についても言及する。

◆略歴

2007年立命館大学大学院文学研究科博士後期課程地理学専攻修士 博士(文学)
2008年より現職
専門は経済地理学・交通地理学

第六回 7月10日(日)

舞鶴軍港への鉄路

まつした たかあき
松下 孝昭 氏



神戸女子大学 文学部
教授

◆講座概要

京都では、官設鉄道として東海道線が完成したのに続き、舞鶴への鉄道の敷設が焦点となった。維新後の市勢の衰退を挽回するための京都振興策として、1890年代にいきりに喧伝され、激しい誘致合戦のすえ、京都鉄道会社による私鉄線として建設が始まる。他方、舞鶴には海軍の軍港が置かれ、国防政策上からも、鉄道の敷設は焦眉の急となった。このように、京都～舞鶴間の鉄道は、経済史のみならず、都市史や軍事史の面からも見ていく必要がある。今回は、とりわけ明治期における軍都・軍港の全国的配置と鉄道ネットワークという大きな視点の中に位置づけつつ、日露戦時に舞鶴まで鉄路が通じる過程を論じていきたい。

◆略歴

1958年大阪府生まれ。京都大学文学部卒業。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。1995年神戸女子大学文学部講師。2006年から現職。近代日本政治史を専攻。著書に『近代日本の鉄道政策』、『鉄道建設と地方政治』(ともに日本経済評論社)、『京都市政史』(共著)など。

開催日時 2011年6月5日(日)～11月13日(日)14時～15時30分

【実地講座は、11月6日(日)13時30分～15時30分、11月20日(日)13時～16時】

開催場所 キャンパスプラザ京都4階 第2講義室

【実地講座は、11月6日(日) 疏水歴史めぐり(山科周辺)、11月20日(日) 保津川下りを開催】

第七回 10月16日(日)

角倉了以と高瀬川

かつ や あつ お
勝矢 淳雄 氏



京都産業大学 理学部
教授

◆講座概要

角倉了以は大堰川の開削に引き続き、大阪との物質の流通を円滑にするため、木屋町二条と伏見掘詰間におよそ10キロの人工河川である高瀬川を開削した。これで京都は伏見から淀川を通じて大阪とつながった。高瀬川の舟運で京都の物価が下がり、庶民は喜んだという程の大きな影響を与えた。江戸に政治の中心が移ったが、日本の中心として京都は再び活気を取り戻した。角倉了以の人となりとともに高瀬川の開削を考えてみたい。

◆略歴

1941年東京都生
1964年京都大学工学部卒業
1969年京都大学大学院工学研究科博士課程
修了(工学博士)
1969年京都産業大学教養部講師、助教授、教授を
歴任
現在、同理学部教授
2010年日本水環境学会 関西水環境賞受賞

第八回 10月23日(日)

保津川の綱道 ～船を曳き上げた道～

う かい ひとし
鵜飼 均 氏



亀岡市教育委員会
社会教育課 主任

◆講座概要

保津川の水運は、古代から都の木材供給地である丹波山地と京都を結ぶ重要な木材流通水路として筏が流されていた。京都への入り口にあたる保津峡は著しい蛇行流路をなしていたため、慶長11年角倉了以が保津峡の開削を成し遂げ、通船が可能となった。筏流しは、流しっぱなしで良いが、船はそういうわけにはいかない。昭和22年ころまでは、川べりにつくられた「綱道」とよばれる道を、船を下した船頭4人が、麻綱で曳いて上った。船頭たちの労苦をしのびながら、水の道としての保津川の役割を考える。

◆略歴

佛教大学・京都造形芸術大学非常勤講師
京都愛宕研究会事務局
地域資源を掘り起こす会代表
『愛宕山と愛宕語り』編著
『保津川下りの今昔物語』監修 保津川の世界遺産登録をめざす会発行
『川船 大堰川の舟運と船大工-』(亀岡市文化資料館第42回企画展示会図録)
『気がつけばなくなりつつある民俗技術養蚕 一カイコと桑と繭と-』(亀岡市文化資料館第46回企画展示会図録)
『諸国をめぐる伊勢大神楽』(亀岡市文化資料館第25回特別展示会図録)
『自治体史編纂事業と民俗文化財』(民俗文化財 保護行政の現場から)岩田書院。

定員
250名
事前申込制



実地講座 11月6日(日)

疏水歴史めぐり ～疏水にかけた期待と疏水の実際～

はら だ けい いち
原田 敬一 氏



佛教大学 歴史学部
教授

◆実地概要

第一次疏水のポイントを実際に歩き、体験する。第一トンネル西口には山県有朋、第二トンネル東口には井上馨、西口には西郷従道の書が掲げられていることを確認する。それ以外の場所には三条実美、伊藤博文、松方正義、北垣国道、田辺朝郎、久邇宮邦彦らの書がある。自製した燻瓦工場の跡も見学する。

実地講座 11月20日(日)

保津川下り ～船を曳き上げた綱道を辿る～

う かい ひとし
鵜飼 均 氏

亀岡市教育委員会
社会教育課 主任

◆実地概要

出発点である亀岡から乗船して京都嵐山渡月橋まで保津溪谷を下る保津川下り。通常ですと一旦乗船すると到着地まで下船することはありませんが、今回は特別に途中で下船し、その昔船を曳き上げた綱道と呼ばれる道や川下りのために設置した水寄せなどの場所に立っていただき、また一味違った保津川下りを体験していただきます。

京の地中を流れる水

や き とおる
八木 透 氏



佛教大学 歴史学部
教授

◆講座概要

「水の都」といえば大阪を連想される人が多いだろうが、実は京都も「水の都」というにふさわしいまちである。なぜなら、京の都の地中には、何と琵琶湖とほぼ同じ水量の水が眠っていることが、これまでのさまざまな調査から明らかになってきたからである。しかもその地下水は、北東から南西の方向へ流れているというのである。京のまちの地下深くを、悠久の昔から流れる地下水脈に思いを馳せ、京の人々と水との関わりについて、民俗学の立場から考えてみたいと思う。

◆略歴

京都生まれの京都有り。生粋の京都市人。祇園祭鉦町で、近世から続く白生地問屋の家筋に生まれる。同志社大学文学部卒業、佛教大学大学院博士課程満期退学。博士(文学)。また京都愛宕研究会会長・祇園祭綾傘鉦保存会理事・世界鬼学会会長などを務める。主要な編著に、『婚姻と家族の民俗的構造』(吉川弘文館)・『京都の夏祭り』と民俗信仰』(昭和堂)・『図解雑学・こんなに面白い民俗学』(ナツメ社)・『京都愛宕山と火伏せの祈り』(昭和堂)・『男と女の民俗誌』(吉川弘文館)など、多数。

